

昔のお墓である古墳には、埋葬された人物と一緒に当時の貴重な品が納められることがあります。これらを副葬品といいます。納められた品の中には、ヤマト王権や中国・朝鮮半島といった地域との関係を知る手掛かりがあります。

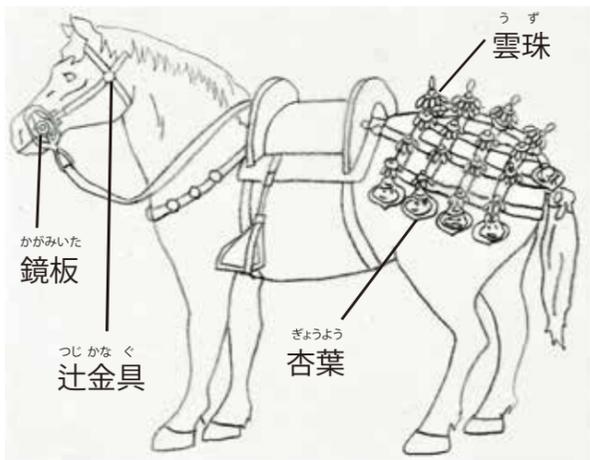
学習支援展示「大昔の暮らし(縄文・弥生・古墳時代)～きみの町の遺跡・古墳～」では、松阪市内の古墳から見つかった装身具や甲冑といった武具、馬具、銅鏡などの副葬品を展示しています。ぜひ、ご覧ください。

今回は、山添2号墳(掃水小学校区)で見つかった副葬品から考えられる埋葬された人や、当時の地域の様子を紹介します。

【山添2号墳の特徴的な副葬品】

山添2号墳は、松阪市の南東部、山添町にある古墳です。直径20mほどの円形をしており、今から1500年ほど昔の6世紀に造られた古墳です。副葬品として、馬具や握り環頭大刀と呼ばれる刀の他、須恵器と呼ばれる土器や勾玉や管玉といった玉類などが見つかっています。

馬に乗ることは、主に戦いの手段として朝鮮半島から日本にもたらされたようです。馬具は、馬に乗るために取り付ける道具のことです。古墳に納められた馬具からは、当時の馬の様子がうかがえます。



馬具を装着した馬

山添2号墳からは、金銅製(銅に金箔をはったもの)の馬具が出土しています。金色に輝く馬具を付けて飾り立てられた馬は、戦いの時に大将が目立つようにまたがっていた「飾り馬」であったと思われます。

当時、馬に乗ることができたのはごく一部の人たちで、飾り馬に乗れたのは、その中のさらに限られた特別の人だったでしょう。

これらの馬具は、その勢力の大きさや強さを示すために用いられていました。



握り環頭大刀(部分)

次に、注目すべきものとして握り環頭大刀があります。柄頭(持ち手の先)に、握りを加えた半円形の銀細工が付いています。優れた職人が造る手の込んだ刀のひとつが握り環頭大刀であり、有力者しか持てないとされています。身分の高い人を埋葬したと思われる藤ノ木古墳(奈良県)や、県内でも井田川茶臼山古墳(亀山市)、保古里車塚古墳(鈴鹿市)など地域の首長墓とされる古墳からも出土しています。

飾り立てられた馬具や銀の握り環頭大刀は、地元では造ることのできない貴重なものです。そのため、当時のヤマト王権から分け与えられたものであると想像でき、有力者が山添周辺にいたと思われます。(担当)

【時の記念日】

6月は、田に水が張られ、梅雨がはじまり、水に関わることの多い月です。6月10日の『時の記念日』も、起源をたどれば水時計でした。飛鳥時代、大化の改新で日本政治史に名を残した天智天皇が、671年4月25日の頃、「漏刻(水時計)を台に置いて、鐘や鼓で人々に時刻を知らせた」という記述が日本書紀にみられます。これが日本における時報の始まりといわれ、4月25日を新暦にあてると6月10日になり、水時計を使って日本で初めて時刻が定められたのを記念する日になりました。1920年(大正9年)に「時間をきちんと守り、生活の改善や合理化を図ろう」と『時の記念日』が制定されたようです。



時の始祖、天智天皇を祀る滋賀県大津市の近江神宮では、毎年6月10日に漏刻祭が行われています。漏刻はどんなものだったのか、水時計はどんな仕組みで時を知ることができるのか、調べてみてはどうでしょう。緊急事態宣言も解除された今、時の記念日を機に、ステイホームで鈍ってしまった時間の感覚やこれからの新しい生活様式に合った時間の使い方などについて考えてみましょう。

文化財センターは感染防止対策を行い開館しています。はにわ館では、「大昔の暮らし」が開催中です。皆さまも対策してご来館いただき、古代の時間の流れを想像しながら展示をご覧ください。(所長)

文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

6月の休館日は、1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)
7月の休館日は、6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)
開館時間は9:00～17:00です。

【はにわ館】 入館料 110円 (18歳以下無料) *入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」
第2展示室 ■学習支援展示「大昔の暮らし(縄文・弥生・古墳時代)～きみの町の遺跡・古墳」 6/14(日)まで



バーコード読み取り
(文化財センター情報)